

特別支援学級経営 スタート講座



福井県特別支援教育センター

特別支援学級を担当する先生方、ようこそ特別支援学級へ。

特別支援学級は、障がいのある児童・生徒が、自立と社会参加に向けて学習する場の一つです。また、児童・生徒の実態をていねいに見とり、ニーズを把握し、一人一人に合わせた適切な支援を行う、といった特別支援教育の核となるところです。

ここからは、特別支援学級担任の実務的な部分についてお話します。

7つのポイント

- 1 子どもを見る観点
- 2 特別支援学級の教育課程
- 3 年間指導計画
- 4 学級経営案
- 5 1年間の学級事務
- 6 教室環境
- 7 特別支援学校のセンター的機能

7つのポイントについてお話しします。

特別支援学級担任として大切な

1 子どもを見る観点



子どもの気持ちに寄り添う

「〇さんもつらかったんだね」
「こんなことで困ってたんだね」

「先生はこうしてほしいよ」
「こうするとうまくいくよ」

子どものよさを生かして伸ばす

➤ 子どもの**できていること**、**がんばっていること**、**好きなこと**、**得意なこと** に目を向ける

特別支援学級担任として大切なことは、子どもを見る観点です。

まず、子どもの気持ちに寄り添うことです。

特別支援学級に在籍する子どもたちの障がいや、特性ゆえの‘できなさ’や‘困った行動’が見えてくることが多々あります。そんな子ども達が見せる行動に対して、「困った行動や改善の必要な行動をせざるを得なかった」その気持ちにまず、寄り添いましょう。

「〇〇さんも、つらかったんだね」「こんなことで困っていたんだね」というように、子どもの立場を理解して声を掛けます。その上で、「先生はこうしてほしい」「こうするとうまくいくよ」という気持ちを伝え、どうしたらよいか一緒に解決策を考えましょう。

次に、子どものよさを生かして伸ばす、ということです。

苦手な部分ばかりが気になり、「あれもできない」「これもできない」と思い悩むことがあるかも知れません。

そんなときは、少し発想の転換をしてみましょう。「〇〇をしているときは、最後まで机に座って集中できている」「〇〇の時間のこの学習はできる」というように、子どものできていること、がんばっていること、好きなこと、得意なことに目を向けます。

これらをさらに伸ばすことによって達成感や成就感が生まれると、苦手なことにも取り組んでみようとする意欲を高めることにつながるでしょう。

まずは 子どもを知る ことから！

在校生

✓ 年度当初に確認する書類

	書類名	チェック
1	個別の教育支援・指導計画	
2	年間指導計画	
3	指導記録(成績一覧表、指導要録等)	

✓ 年度当初に確認すること

	確認事項	チェック
1	通学路や通学方法	
2	登校時の迎え方及び朝の準備の指導内容	
3	学校での服薬の有無	
4	身体状況 アレルギー等 過敏性の有無	

新入生

✓ 年度当初に確認する書類

	書類名	チェック
1	保幼小からの指導要録写し	
2	保幼小からの移行支援シート	
3	サポートブック	



サポートブック

・子どものライフステージが変わる際に、子どもの普段の様子や関わり方や知っておいて欲しい情報を、園や学校の先生と共有するためのツールのこと

特別支援学級担任として大切な「子どもを知ること」について考えてみましょう。

特別支援学級の児童・生徒は、障がいの状態、発達段階など一人一人様々です。まずは子どもを知ることが大切になります。

ここに挙げたのは子どもを知ることができる書類です。確認ができたところに、チェックをし、まだ目を通していないものに関しては、一度目を通しておくとよいでしょう。

特に新入生については、子ども園・小学校から児童・生徒の情報があがってきています。

ここに明記してある‘サポートブック’とは、入園・入学・進学など、子どものライフステージが変わる際に、子どもの普段の様子や関わり方、知っておいて欲しい情報を、園や学校の先生と共有するためのツールのことです。

このサポートブックは就学する子ども全員が持ってあがるものではありませんが、保護者が我が子のことを学校へ理解してもらいたいという願いで作られたものです。指導要録、移行支援シートと同様、サポートブックには、必ず目を通し、目の前の子どもの、これまでの育ちやこれまでどんな支援や配慮を受けてきたのかといった情報を引き継ぐことを大切にしてください。

また、年度末に移行支援会議が開かれている場合がありますので、どのような話し合いがなされたのか、管理職や特別支援教育コーディネーターの先生方などから情報を得ておきましょう。

2 特別支援学級の教育課程

【学校教育法施行規則第138条】

特別支援学級	
肢体不自由・病弱・身体虚弱 弱視、難聴、自閉症・情緒障害	知的障害
知的障害を 有しない場合	知的障害を有する場合

知的障害学級

教科別の指導

各教科等を
合わせた指導

小学校	中学校
各教科(高学年：外国語科)	各教科
道徳科	道徳科
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
特別活動	特別活動
自立活動	自立活動
日常生活の指導	日常生活の指導
遊びの指導	
生活単元学習	生活単元学習
	作業学習

次に特別支援学級の教育課程です。ここに示したのは知的障害学級の教育課程です。

2 特別支援学級の教育課程

【学校教育法施行規則第138条】

特別支援学級	
肢体不自由・病弱・身体虚弱 弱視、難聴、自閉症・情緒障害	知的障害
知的障害を 有しない場合	知的障害を有する場合

自閉症・情緒障害学級

小学校	中学校
各教科(高学年：外国語科)	各教科
道徳科	道徳科
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
特別活動	特別活動
自立活動	自立活動

このシートは自閉症・情緒障害学級の教育課程です。

2 特別支援学級の教育課程

【学校教育法施行規則第138条】

特別支援学級	
肢体不自由・病弱・身体虚弱 弱視、難聴、自閉症・情緒障害	知的障害
知的障害を 有しない場合	知的障害を有する場合

小学校・中学校の学習指導要領に沿った教育

- **当該学年の内容**＋配慮・支援 → 通常の学級の教育＋自立活動
- **下学年の内容**＋配慮・支援 → 学習形態の工夫－グループ別学習、個別学習
- **知的特別支援学校における各教科の内容**＋配慮・支援
→ 指導の形態の工夫－各教科等を合わせた指導

特別支援学級の教育課程をまとめたスライドです。

3 年間指導計画

知的障害学級(小学校)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な学校行事	入学式	春季遠足	自然教室(3年)		運動会	地区陸上総練習 マラソン大会	春季旅行(6年)		スキー教室(3, 6年)	なわとび大会	卒業生を送る会	
関係市行事			小学校交流会 「なかよし遠足」			小学校交流会 「陶芸・スポーツ教室」		小中合同学習会			卒業式	
生活単元学習 自立活動	野菜を育てよう											
	じゃがいもを植えよう	トマト・キュウリ・サツ マイもを植えよう	野菜の収穫祭 (じゃがいも・トマト・ キュウリ)	カブを植えよう	野菜の収穫祭 (サツマイモ)			野菜の収穫祭 (カブ)				
	季節の風物詩を作ろう											
	さくら・チューリップ・ ちょうりょう	こいのぼり	あじさい・カタツムリ・ てくてくもぐさ	ひまわり・あきがお	月・だんご・さき	おもち・ぶり	サンタクロース・ リース・スズラン	雪だるま	おに			
総合的な学習	パソコンで活動の振り返りシートを作ろう											
生活科	1年生となかよし	やさいをそだてよう	まちたんけん		むしをかんとしよう	うごくおもちゃをつくろう					大きくなったわたし	
国語	個々の児童に応じた課題を中心に指導											
	自己紹介をしよう		しりとりの遊び		ことばあつめ		げきあそび			ことばビンゴゲーム		
算数	個々の児童に応じた課題を中心に指導											
	いろいろなかたち		ながさしらべ		おもさしらべ		かさしらべ			金額学習		
音楽	交流学級にて、各学年の学習を行う											
	校歌・今月の歌・季節の歌・リズム遊び				今月の歌・季節の歌・リズム遊び・楽器を使って				卒業式の歌			
体育	交流学級にて、各学年の学習を行う											
	おにごっこ・鉄棒・ボール運動			水泳	運動会練習	マラソン・マット・跳び箱				なわとび		
図工	交流学級にて、各学年の学習を行う											

年間
作
見
目
計
大

ここが
ポイント!

年間指導計画を 作成することで...

児童・生徒の実態や
目標を大切に
した
計画性のある指導
を大切に!!

次に、年間指導計画です。

特別支援学級は、それぞれ学級ごとに在籍する児童生徒の学年、実態がすべて異なりますので、それぞれの学校ごとで、児童生徒の実態に即して、作成していくことになります。

一から作成をしていくのは非常に負担が大きいと感じられると思います。

前年度までに作成したものを活用したり、近隣の特別支援学級担任から情報をもらったりしながら、少しずつ作成にとりかかっているとよいでしょう。

年間指導計画の作成は義務ではありませんが、計画性のない、いきあたりばったりの指導にならないためにも、学級の年間指導計画が作られていることは、とても大切なことです。

活動ありきの指導ではなく、児童・生徒の実態や目標を大切に
した計画性のある指導を心がけ
ましょう。

これは、県内の小学校の知的障害学級で作られた年間指導計画です。拡大します。

	4月	5月	6月	7月	知的障害学級(小学校)	
主な学校行事	入学式	春季遠足	自然教室(5年)		運動会	地区陸上
市行事			小学校交流会 「なかよし遠足」			マラソン 小学校 「陶芸・ 室」
生活単元学習 自立活動	野菜を育てよう					
	じゃがいもを植えよう	トマト・キュウリ・サツ マイモを植えよう		野菜の収穫祭 (じゃがいも・トマト・ キュウリ)	カブを植えよう	野菜の
	さくら・チューリップ・ ちょうちょ	こいのぼり	あじさい・カタツムリ・ でてる坊主	ひまわり・あさがお	月・だんご	
	よもぎ団子を作ろう	母の日に送ろう	なかよし遠足へ 行こう	七夕まつり	ジャンボシ を作ろう	
総合的な学習						
生活科	1年生となかよし	やさいをそだてよう	まちたんけん			
国語						
	自己紹介をしよう		しりとり遊び		ことばあつめ	

ここが
ポイント!

生活単元学習、
作業学習(中学校)と
教科別の指導との
関連を図りながら、
年間指導計画を作成
していく

上から、学校行事、地区の行事、生活単元学習、自立活動、そして各教科…と順にあります。
知的特別支援学級では、児童生徒の学習全体が、生活として一つのまとまりになるように、生活
単元学習、中学校においては作業学習と教科別の指導との関連を図りながら、年間指導計画
を作成していくことが大切になります。

自閉症・情緒障害学級(小学校)

次は、県内の小学校で作成された自閉症・情緒障害学級の年間指導計画です。

9

自閉症・情緒障害学級(小学校)						
	4月	5月	6月			
主な 学校・学級行事 ※は特学合同行事	入学式 始業式	地区体育大会 校外学習	避難訓練	あじさいまつり	連合体育	
日常生活の 指導	個々の児童の実態に応じて 食事、手洗いなどの日					
合 教 科 等 を 指 導	自立活動 (生活単元 学習)	新しい学年 春探し	校外学習 野菜の栽培	調理学習 プール開き	お楽しみ会 交流会 野菜の収穫	夏の思い出 調理学習 (買い物)
各 教 科 別 の 指 導	国語	A	自己紹介(自分の名前) 物の名前(絵カードを使う)	直線のなぞり書き 点と点を結ぶ	簡単なお話 簡単なお話	
		B	自己紹介(自分の家族の 名前・住所・電話番号)	ひらがなを丁寧に書く 小学校1・2年の漢字を読み書		
	算数	A	色の弁別(赤・青・黄色) 数唱(1から10まで)	一対一対応 身近な物の大小	多い少ない 数えてみよう	
		B	数えてみよう(100までの数) 数唱(1から100まで)	金銭(硬貨を組み合わせで10 時計(15分ごと、5分ごと・		

ここが
ポイント!

**自立活動を
各教科別の指導や
学校教育全体を
通じて行うこと**

上から、学校行事、自立活動、各教科別の指導…と順にたてられているように、自閉症・情緒障害学級では、自立活動の指導が重要になってきます。

自閉症・情緒障害学級担任の先生方、時間割の中に「自立活動」という時間を設けていますか？児童生徒の実態や交流教科等のからみで、日課に位置づけられなかった学級もあるかもしれませんが、自立活動の指導を各教科別の指導の中で取り扱うなど、学校教育全体を通じて行うことが大切です。

3 年間指導計画

中学校

区分 (授業日数)		1学期 (103)							2学期 (97)					
月 (授業日数)		4月 (17)	5月 (20)	6月 (22)	7月 (13)	8・9月 (9・20)	10月 (8)		10月 (10)	11月 (20)	12月 (16)	1月 (17)	2月 (19)	3月 (16)
主な学校行事		入学式・校外学習 始業式・対 宿泊学習 面式 P T A 総会		中間考査 保護 者 懇 談会	合唱コンクール	学校祭 期末考査	終業式		始業式 各校訪問献儀大 会	校外学習 職場体験	中間考査 こんにちは先輩 三者懇談会	オープンデー 期末考査		卒業式 立志式 修了式
		(特別支援学校見学会)				特別支援 合同宿泊学習			(特別支援学校見学会)			特別支援合同学習会		
5 組	各教科	・通常学級に準ずる内容 (2・3 年 年間計画に準ずる)												
自閉 情緒	自立活動	・コミュニケーションに関する SST を行う。 ・集団参加に関する S S T を行う。												
	5 教科	国	・小2～3 程度の内容の学習を行う。・生活に必要な国語的な内容を学習する。											
数		・生活に必要な数学的な内容を学習する。												
社		・生活に必要な社会的な内容を学習する。												
理		・生活に必要な理科的な内容を学習する。												
英		・簡単な英会話を言い、英語に親しむ。												
6 組	職業家庭	・作業学習を行う。												
	生活単元	・炊作り・買物学習など生活に根ざした体験学習を行う。												
	自立活動	・コミュニケーションや集団参加に関する SST を行う。・連絡学習を行う。												
通級	全学年	・数学・英語など教科学習への支援												
	年度途中	担任、もしくは教科担当者から申し出があった場合、校内委員会を検討後、教科及び実施回数を検討する												
		担任、もしくは教科担当者から申し出があった場合、校内委員会を検討後、教科及び実施回数を検討する												

次は、県内の中学校で作成された年間指導計画です。

この学校は、自閉症・情緒障害学級と知的障害学級の 2 学級があり、特別支援学級を利用した校内の通級による指導（通常学級から取り出しての指導）も行っています。拡大します。

5組	各教科	・通常学級に準ずる内容（2・3年 年間計画に準ずる）	
	自閉情緒 自立活動	・コミュニケーションに関する SST を行う。 ・集団参加に関する SST を行う。	
6組	知的障害 5教科	国	・小2～3程度の内容の学習を行う。・生活に必要な国語
		数	・生活に必要な数学的な内容を学習する。
		社	・生活に必要な社会的な内容を学習する。
		理	・生活に必要な理科的な内容を学習する。
		英	・簡単な英会話をを行い、英語に親しむ。
	職業家庭	・作業学習を行う。	
知的障害	生活単元	・畑作り・買物学習など生活に根ざした体験学習を行う。	
	自立活動	・コミュニケーションや集団参加に関する SST を行う。・進路	
	全学年	・数学・英語など教科学習への支援	
通級	年度途中	担任、もしくは教科担当者から申し出があった場合、校内委員会で検討後	

ここがポイント！

児童・生徒の実態に応じて
変更や修正を加えながら活用
すること

このように1枚のシートの中に、自閉症・情緒障害学級、知的障害学級、そして通級による指導の3つをもちこんで作成しています。

ざっくりと大きな計画ではありますが、児童生徒の実態に応じて、変更や修正を加えながら、活用していくことが大切です。

4 学級経営案



テーマ性のある学級づくりを!!
学級目標に立ち戻り、
成長を振り返られる目標を

ふたば学級 学級経営案

担任 大橋 先生

1 学級の実態	学級の種別 在 籍 数 児童の実態	情緒障害学級 5年生男子 2名 昨年まで通級指導を受けていた5年生男子1名が入学し、2名となった。通級指導の5年生男子については、広汎性発達障害の診断がついている。個別指導が必要な数科は国語、すべてで交流学級で過ごしている。生活面ではほぼ自立しているように見えるものの、不規則で、整理整頓は苦手であったり、歩幅を忘れたりするなど、細かい部分での支援が必要である。 今年度から入学した5年生男子については、ダウン位である。知的障害を併せ、発達が不明確である。学習生活面では、ほぼ自立できているが、コミュニケーション面において支援が必要である。固執な性格で、困難な場面になると我を通し、動けなくなったり、揺れたりするなど発達する場面がある。担任(男)1名、副担任、教員、保育、音楽、図工を交流学級で活動している。
2 学級目標	ここにこスマイル ◎げんきにあいさつ スマイル ◎ともだちとなかよく ルールをまもって ◎わかった!できた! スマイルいっぱい ふたば学級	(1)いつも明るく、挨拶や返事ができる学級。 (2)ルールを守って、楽しく行動できる学級。 (3)自分の力を、のびのびと発揮できる学級。
3 具体的方策	生 活 面 行 動 面 学 習 面	・朝の会終了後職員室に行き、先生方に進んで挨拶する機会を設ける。 また、進捗の仕方や正しい言葉使いの表を教室に掲示し、大きな声で返事をすること、正しい返事をめくことを目指していく。 ・休み時間に教室を開放し、多学年の子ども達と交流する機会を設けて、周りの友達を意識できるようにする。そこから、社会参加への意識の向上につなげていく。 ・当班には通学定表を表示し、朝の会を利用して、今週・昨日・今日・明日について予定を知らせていく。今日は何をやるのか、いつどこへ行くのかといった見通しを持って行動できる子、進んで行動する子を見ていく。 ・毎月、今月の目標を決めて「めあて」を持たせ、一生懸命取り組める手をつけていく。「めあて」の中には、ソーシャルスキル面での目標も取り入れ、ルールを守ることを意識させていく。がんばったことについては、シールやメダルを与え、次の活動への意欲につなげていく。 ・「はなまるタイム」の時間を利用して、話す力、書く力、読む力、計算する力を養う。また、図画や算数の時間には、生活に生かせる内容や題材を取り入れ、生きる力を育てていく。「できた!」「分かった!」という満足感や達成感を味わうことで、自分の自信を持って、のびのびと学習できる子を見ていく。 ・生活単元学習や自立活動の時間には、社会生活に必要な生活能力を培うことを目指して、体験的な学習を多く取り入れていく。
4 保護者の願い	・美しい学校生活を送ってほしい。 ・一人で勝手に行動するのではなく、集団の中で生活できるよう、ルールやマナーを身に付けてほしい。 ・通級学級との交流を大事にしてほしい。	
5 教師の信条	・一人一人の障害の程度や発達の状態を、的確に把握し理解することに努め、指導にあたりたい。 ・子どもの思いを大切に、一人一人の児童が主体的に動かし、明日を心待ちにできるように学校生活づくりを支援していきたい。 ・保護者との連携を密にし、保護者の思いに寄り添いながら、家庭とともに、子どもの成長発達を支援していきたい。 ・社会自立、社会参加につながる、児童一人一人の生きる力を育てていきたい。	

次は学級経営案です。

学校によっては、たてる必要のない学校もあるかと思いますが、学校や学年の目標に即し、児童生徒の障がいの状態および特性等を考慮して、年間をとおしての学級経営の目標や方針を明確にし、計画を作成します。

経営案は、まずは各学校や各学年のスタイルに基づいて記入をしますが、児童生徒の状態から書きにくい場合には、学級独自の形式を考え、記入していくことが必要になります。また、特別支援学級の経営案の特徴として、「交流及び共同学習」についての方針も盛り込む必要があります。

ここに紹介する経営案、学級目標は小学校の例です。学級目標を大事にすることで、学級の子どもたちのつながりも深まっていきます。このように子どもたちと一緒に学級みんなで目指す1年間のテーマを話し合って決めるとよいでしょう。

テーマ性のある学級づくりを、そして、年度末に、子どもたちと学級目標に立ち戻り、成長を振り返ることができるように、活用してください。

特別支援学級 5 一年間の学級事務 この時期にこれをやっておこう！

5～6月

- ☐ 保護者との相談
(今年度の目標、
進路の希望調査
(中学校)等)
- ☐ 個別の教育支援・
指導計画の作成
- ☐ 学級経営案の作成
- ☐ 学級通信の作成
- ☐ 就学指導委員会の
文書作成

・個別の教育支援・指導計画をもとに、今年度
の目標や支援内容を、保護者と確認



**進路についての確認は
小学校高学年から!!**

進学？(全日制or定時制or通信制)
特支校？就職？

次に、1年間の学級事務について見ていきましょう。

4月の学級事務につきましては、各学校にあります「特別支援学級・通級による指導に関する手引き」を参考にしてください。

5月～6月から簡単に説明します。

この時期には、保護者との相談が大切です。本人の願いや保護者の思いを聞き取り、個別の教育支援・指導計画をもとに、今年度の目標や支援内容を話し合っておきましょう。

個別の教育支援・指導計画については、必ず今年度の目標や支援内容を保護者と確認しておくことが大切です。

個別の教育支援・指導計画につきましては、第3研修の資料をご覧ください。

特に進路については、小学校は高学年から、中学校では必ず1年生の段階から、保護者の確認を行っておくことが重要です。

進路指導

ここがポイント!

－進路指導について－

- ✓ 本人、保護者の考えを十分に聞いて
- ✓ 学年との情報共有をしっかりと

目標：生徒が**自分自身でより適切な進路を選択**できるようにする

➤ 本人、保護者の思いを確認

ex. 進路希望調査、保護者会、3者面談

※特別支援学校への進学を希望する場合

- ◎ 受験に一定の条件（医師の診断書、療育手帳など）
- ◎ 早めに特別支援学校と連携を

➤ 情報共有をしっかりと

ex. 3年学年会、3学年主任、進路担当者

進路指導で押さえておきたいことです。

中学校では、早めの進路指導が必要になってきます。

進路指導の目標は、生徒が自分自身でより適切な進路を選択できるようにすることです。まずは、生徒が、将来をどのように考えているのか、本人の考えをしっかりと聞くことから始めましょう。また、保護者の意見も大切になってきます。保護者とも連携して一緒に考えていく姿勢を示しましょう。

次に、学年との情報共有が不可欠です。学年主任や進路担当者などとの連携を取りましょう。特別支援学校高等部に進学を考えている場合には、一定の条件（例えば、医師の診断書、療育手帳など）がありますので、早めに準備にとりかかる必要があります。入学の条件を満たしていないと判断される場合もありますので、特別支援学校との連携を早めに取りましょう。

夏休みには、中学3年生の生徒を対象に各高校のオープンスクールが開催されます。高校の進学を考えている場合は必ず参加するようにしましょう。特別支援学校を考えている場合でも、希望があれば参加して、他の学校を知っておくこともよいと思います。新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催時期や方法が変更になっている場合もありますので、各学校のホームページを確認の上、参加してください。

学年との情報共有と本人保護者の考えを十分に聞くことを大切にしましょう。

特別支援学級 5 一年間の学級事務 この時期にこれをやっておこう！

1 学期
(前期末)

- ☐ 通知表の作成・記入
- ☐ 学級懇談会の準備
- ☐ 夏休みの宿題準備
- ☐ 学級会計報告の作成
- ☐ 家庭訪問の計画



特別支援学級の通知表

➤ 子どもにもわかる工夫を

- ・よいところを記入
- ・子ども自身の自信や励みにつなげる

- ・交流学級担任、出入り担当、教科担任との
情報交換、連携



成績交換

= 情報共有の期間 !!

1 学期、前期末の学級事務についてです。

この時期は、通知表の作成・記入が最も大切な学級事務です。

特別支援学級の通知表は、学校で使われている通知表を使う場合と、特別支援学級独自に作成したものを使う場合があります。独自のものとしては、保護者を対象に記述式のものが使われている学校もあります。また、個別の指導計画の内容を通知表に取り入れて活用している学校もあります。先生方がこれから作成する通知表のことで悩まれた際には、一人で悩まず、ぜひ同じ中学校区や同じ市町にいるベテランの特別支援学級担任と情報交換などをするとよいでしょう。

また通知表の記入で考慮したいこととしては、子どもにも分かる工夫をします。子ども自身が読むことを考慮し、よいところを書きましょう。また、通知表だけではなく、子ども自身が 1 学期を振り返り、自己評価ができるものがあるとよいでしょう。担任からのコメントを添えるなどの工夫をします。児童・生徒に分かりやすい評価にして伝えることで、子ども自身の自信や励みにつながり、2 学期への意欲も向上します。

通知表の記入にあたっては、交流学級担任や出入り担任、教科担任との事前の話し合いを持つことが大切です。児童・生徒の交流及び共同学習における個々の目標設定や手立てについても評価することができ、次学期への指導にもつながります。成績交換の期間は、校内における児童・生徒にかかわる者同士の情報共有の期間だととらえてください。交流学級担任との情報交換や連携を大切にしましょう。

5-1

先生

ここがポイント!

成績交換での情報共有は…

短時間で有益な話し合いができる工夫を

複数の目で子どもを見ていくことを大切に!!

1学期間、交流教科、各学年行事等いろいろな面でお世話になりました。

・体制面から、どうしても遅れて行くことになったり、当番活動などたりと、ご迷惑をかけることが多かったと思いますが、いつも子どもにやさしく対応いただき、ありがとうございました。

・お忙しい中申し訳ありませんが、交流教科の成績交換をお願いいたします。

先生

Y

	1学期	2学期	3学期
理科	◎	◎	◎
自然のことがらに関心を持ち、問題を進んで調べようとする。	◎	◎	◎
自然のことがらの変化の様子に気付く、原因について考え、表現する。	◎	◎	◎
器具や材料を使って観察や実験を行い、結果をまとめる。	◎	◎	◎
自然のことがらの性質やまわり、それぞれの関係について理解する。	◎	◎	◎

◆あおぞら学級の成績表につきまして

・あおぞら学級の通知表には、通常学級にはない特別支援学級独自の教育課程である自立活動の教科が含まれています。その他は、通常学級児童の書式と全く同じ観点で評価をしていきます。

◆交流教科の成績につきまして

交流教科につきましては、あくまでも、その学年の単元の評価をつけていただきたいと思います。また、記述欄を設けています。保護者との懇談の際にも、交流学級での学習状況等を話題にできたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

▼交流学級において、懇談会で話せるようなエピソードなどがありましたら、教えてください。(交流教科での様子、友達とのかわりなど)

あおぞら学級担任

これは、小学校で実際に使っていた成績交換の文書です。交流学級担任、出入り担当と、このようなシートで成績交換を行うことで、短時間で有益な情報交換ができます。

特別支援学級の児童・生徒を、担任一人で抱えるのではなく、複数の眼で見ていくこと、成長をみんなで支えていくことを大切にしていきたいと思います。

保護者会では、1学期または前期の学校生活や学習の様子をお伝えするだけでなく、2学期または後期の目標や取り組みについて、保護者と共通理解を図る良い機会になります。

保護者会で共通理解された内容を2学期または後期の個別の指導計画に記入しておきましょう。

夏休み

- ☐ 特別支援教育の研修 への参加
(地区研究会・研修講座等)
- ☐ 個別の指導計画の前期の評価、
後期の作成
- ☐ 夏休み明け作品応募

[illegible]

また、1 学期または前期を振り返り、個別の指導計画の評価を記入し、次学期の目標をたてておきましょう。

特別支援学級 5 一年間の学級事務 この時期にこれをやっておこう！

7～12月

☐ 次年度使用教科書の
選考

☐ 文化祭等の計画・準備

☐ 宿泊行事の計画・準備

☐ 冬休みの宿題準備

☐ 卒業アルバムの原稿作成

・ 何を使用するか、一人一人の実態を見ながら検討

・ 次年度の交流教科および共同学習も検討



特別支援学級の教科書

- ① 当該学年の教科書
- ② 下学年の教科書
- ③ 文部科学省著作教科書
☆本(ほしぼん)
- ④ 教科用図書
一般図書

保護者への
説明、同意

7月～12月です。

この時期には、次年度使用教科書の選考が大切です。

特別支援学級における教科書は、教育目標や各教科等の指導内容を十分に吟味し、児童生徒一人一人の発達の状況や障害等に応じて適切なものを準備します。

特別支援学級の教科書は、当該学年や下学年の検定教科書のほかに、③の☆本（星の数で段階を示しています）や、④の一般図書があります。③と④については当センターで閲覧することができますので、何を選ぶのか迷われるときには、センターをご活用ください。

なお、採択に当たっては、受け取れるのは1点のみです。保護者に説明をし、保護者との同意の下に決めていくことを大切にしましょう。

特別支援学級 5 一年間の学級事務 この時期にこれをおこなおう！

1～3月

- ☐ 通知表の記入
- ☐ 個別の指導計画の後期評価の記入
- ☐ 学級会計報告の作成
- ☐ 指導要録の記入
- ☐ 次年度の交流授業について保護者と相談
- ☐ 修了・卒業認定資料の作成
- ☐ 次年度への引継資料の作成
(小中移行支援、中高移行支援)

・実態、学習の達成状況、効果的な手立てを具体的かつ簡潔に記入

・交流学級担任との情報交換、連携

・本人、保護者の希望を必ず確認

・これまでの支援や配慮をスムーズにつなげていく

20

1月～3月です。

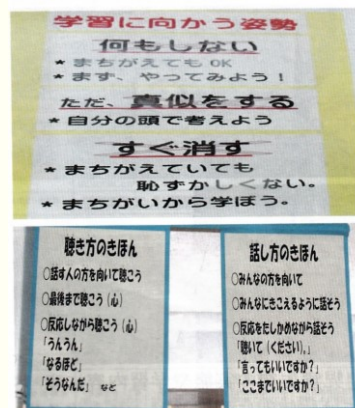
この時期は、今年度の指導のまとめ、引継ぎが大切な学級事務となります。

個別の指導計画の評価を記入し、児童生徒の実態や学習の達成状況、活動内容、効果的な手立てなどを具体的かつ簡潔にまとめることが大切です。この際には、1学期末、前期末と同じく、交流学級担任や出入り担当等との情報交換や連携を大切にしましょう。

特に小学6年生児童、中学3年生の生徒が在籍する場合は、次への就学先に、これまでの支援や配慮をスムーズにつなげていくための引継資料を作成していきます。学校が変わり、担当者が交替するときは、資料だけでは分からないこともあります。進級先の特別支援学級担任、または特別支援教育コーディネーターに直接会って、引継ぎ・打合わせをすることが、一貫性・系統性のある指導につながります。効果的な引継ぎを進めていきましょう。

6 特別支援学級の教室環境

①生活しやすい環境づくり



次は、特別支援学級の教室環境についてです。

3つに分けて説明します。

まず、1つめは、生活しやすい環境づくり を大切にします。

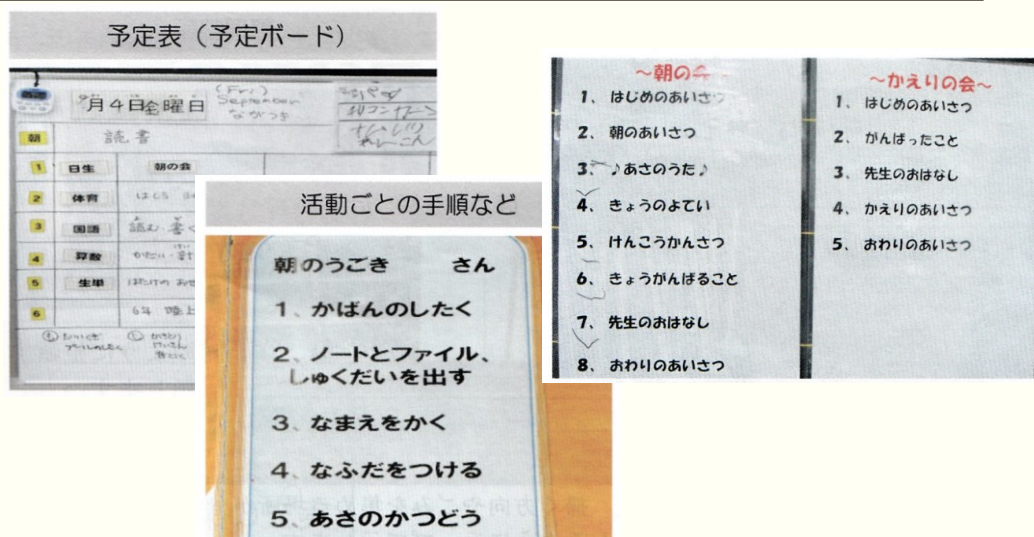
左側の写真のように、教科学習のプリントやワークシートなどを、学習段階に合わせて用意し、整理をしておきます。自立活動の課題や家庭学習のプリントを、児童生徒が自分で用意し、学習に取り組むことができます。

掲示物は、黒板周辺の掲示を最小限にすると刺激が減り、学習に集中しやすくなります。

中央の写真は、提出物の工夫です。連絡帳や家庭学習などを提出する場所を決めておきます。持ち帰るものや配布物もここに入れておくと、配布物が混ざったり入れ忘れたりすることを防ぐことができます。

右側の写真のように、話す、聞かときのポイント、授業のルール、言葉遣いなど、普段から気をつけたいことを整理し掲示しておくと、いつでも確認できます。

6 特別支援学級の教室環境 ②見通しを持ちやすくなる工夫



2 つめに、児童生徒が見通しを持ちやすくなる工夫をします。

まずは左側の写真に示した予定表です。一日の学習内容について、帰りの会や朝の会で確認をし、予定の変更があるときは、朝のうちに伝えておきます。

交流学級で学習する時間や内容、帰りの時刻や方法についても朝の会で確認し、安心感を持たせます。

児童生徒によっては、学習内容や場所などを写真やイラストで示したり、個人ごとに予定表を作ることもあります。

とは言っても、学校は変更がつきものです。急に交流教科が変更になったり、なくなったりします。特別支援学級の児童生徒が困らないように、交流学級担任との連携を図りましょう。

右の写真は、朝の支度カードの例です。必要に応じてこのように個別に表示しておくことで、自分でこのカードを見て朝やるべきことを進めることができます。活動に番号を付けるとより分かりやすくなります。

朝の会や帰りの会のプログラムです。ラミネートをかけてカードにしておくと、当番の児童生徒が手元で見ながら活動できます。

ここがポイント!

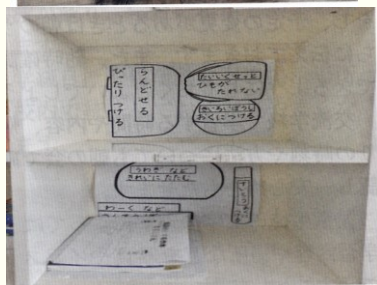
安全で落ち着いた 児童・生徒に分かりやすい環境づくりを

③一人で行うことができるための 環境等の工夫

ほうきを使った清掃



整理整頓



3つめは、一人で行うことができるための環境等の工夫です。

例えば毎日の掃除です。

拭く方向やごみを集める場所が分かるようにテープで示します。

ほうきの持ち方を意識できるよう印をつけます。

片付け方が分かるように掃除用具入れに写真をはります。

整理整頓です。

ロッカーの中をどのように整理するとよいかを写真や文字で示します。

机の中の整頓が苦手な児童生徒もいます。片づける場所を明確にすることで、整理整頓ができ、活動がスムーズになります。

中学校では、扱う教科書やワークなどの冊数も増えるので、各教科ごとに ファイル袋に入れたり、太いゴムなどでひとまとめにしたりしておくなど、次の授業の準備がスムーズにできるような支援をすることもあります。

今紹介したものは、一つの参考例です。

特別支援学級だから、絶対にしなければならないものではありませんが、安全で落ち着いた、児童生徒に分かりやすい環境づくりを心がけましょう。

7 特別支援学校におけるセンター的機能活用について

特別支援学校におけるセンター的機能とは

- ①小・中学校等の教師への支援機能
- ②特別支援教育等に関する相談・情報提供機能
- ③障がいのある幼児児童生徒への指導・支援機能 など

最後になりましたが、特別支援学級のことでは分からないことがありましたら特別支援学校にご相談ください。

特別支援学校には、地域の特別支援教育のセンター的機能としての役割があります。

センター的機能の主な役割には、ここに挙げた 3 点があります。

ぜひ積極的に活用して、悩みを一人で抱えることがないようにしてください。

7 特別支援学校におけるセンター的機能活用について

<センター的機能の活用方法について>

個別の指導計画作成、学習指導案作成、その他分からないことがあれば



- ①担当する特別支援学校を確認
(割り当て校については、**学校に書面で通知**)
- ②担当する特別支援学校に連絡

センター的機能の活用方法です。

先生方は、これから個別の指導計画や学習指導案を作成していくことになります。

今後の新特担の研修においても、実際に取り組んでみると分からないことも出てくると思います。

そんなときには、センター的機能を活用して、特別支援学校にご質問ください。

活用の仕方としては、

- ①先生方の学校を担当する特別支援学校はどこなのかを管理職に確認します。
- ②特別支援学校の担当者に連絡を入れます。

7 特別支援学校におけるセンター的機能活用について

<これまで活用した先生方の声>

- ・対応に困っていた児童への具体的な接し方を教えていただいた。
- ・授業の進め方や学級づくりのアドバイスをもらった。
- ・普段悩んでいることを聞いてもらい、支援を検討することができた。

これは、これまで新特担研修を受講された先生方の中でセンター的機能を活用して、特別支援学校に相談した方の声です。

センター的機能を活用して、生徒への接し方、学習指導や授業づくりについて、困っていることの相談ができました。

7 特別支援学校におけるセンター的機能活用について

<これまで活用した先生方の声>

- ・学期ごとに児童の様子を見てもらい、それに基づき個別の指導計画の作成の助言をしてもらった。
- ・教材の紹介や貸し出しをしてもらった。
- ・進路についてどのように考えていけばよいか助言をもらった。

また、個別の指導計画の作成、教材の紹介、進路指導についてなど、様々な助言をいただき、支えてもらった方もいました。

先生方も分からないことがあれば、ご相談ください。

終わりに

悩んだときには、ぜひご相談を！！

先生方が元気であること

子どもたちの笑顔がたくさん見られる指導が
展開されますように

悩んだときには、一人で抱えこまず、中学校区の特別支援学級担任、特別支援学校、特別支援教育センターにご相談ください。

先生方が元気であること、子どもたちの笑顔がたくさん見られる指導が展開されることを願っております。